

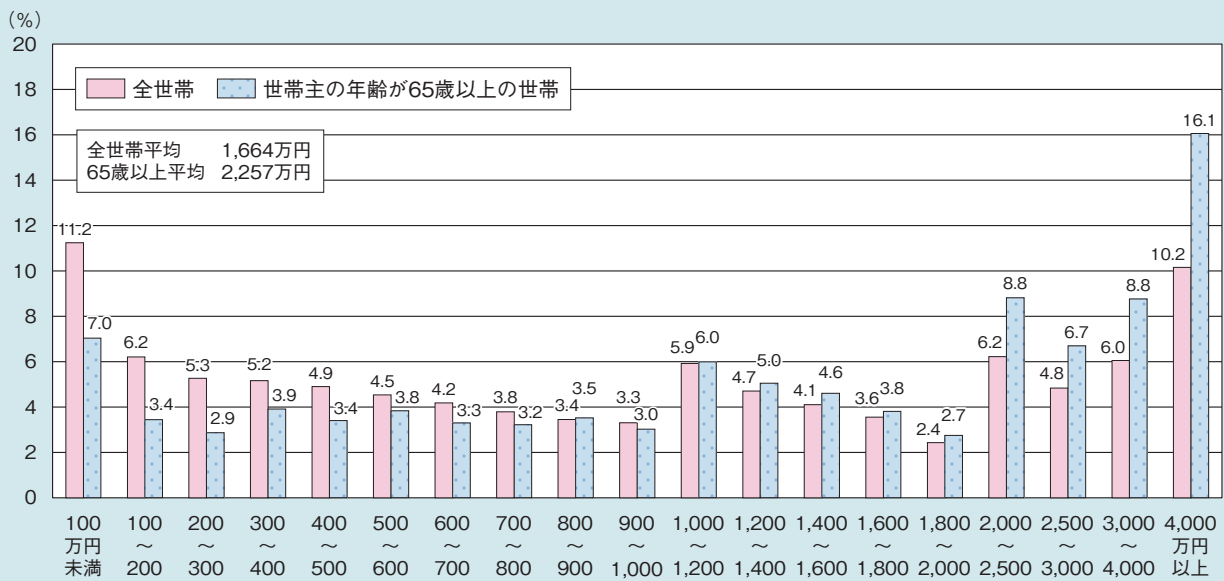
(6) 遺産相続や生前贈与に関する意識

遺産相続に関する国民の意識をみると、「残す財産がないので、遺産を残すことは考えていない」が31.4%で最も多く、次いで「遺産を残すかどうかは考えていない」が22.8%となっている。また、「子どもになるべく多くの遺産を残したい」は22.2%、「遺産を残したいが、誰に残すかは決めていない」は8.2%、「子どものためだけでなく、困っている人や社会・公共の役に立つような使い方を考えたい」が2.2%、「子どものためだけでなく、看護や介護をして

くれたボランティアや施設にも残したい」が1.5%となっている。一方で、遺産を残すことに否定的な考え方（「自分の人生を楽しみたいので、遺産を残すことは考えていない」）の人は8.9%に留まっている（図1-2-2-11）。

また、子どもへの財産の生前贈与に関しては、「望ましい」とする人が40.0%で、「したくない」（31.0%）を上回っているが、60～69歳では「望ましい」が35.4%、「したくない」が43.4%と逆転している（図1-2-2-12）。

図1-2-2-9 貯蓄現在高階級別世帯分布

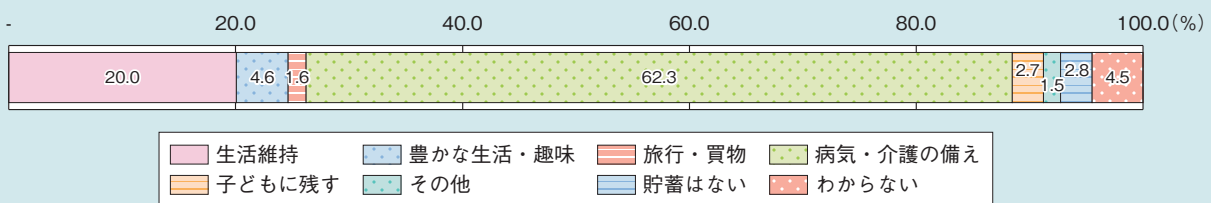


資料：総務省「家計調査（二人以上世帯）」（平成23年）

（注1）単身世帯は対象外

（注2）ゆうちょ銀行・郵便貯金・簡易生命保険管理機構（旧日本郵政公社）、銀行、その他の金融機関への預貯金、生命保険の掛金、株式・債券・投資信託・金銭信託などの有価証券と社内預金などの金融機関外への貯蓄の合計

図1-2-2-10 貯蓄の目的



資料：内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査」（平成23年）

（注）対象は、全国60歳以上の男女